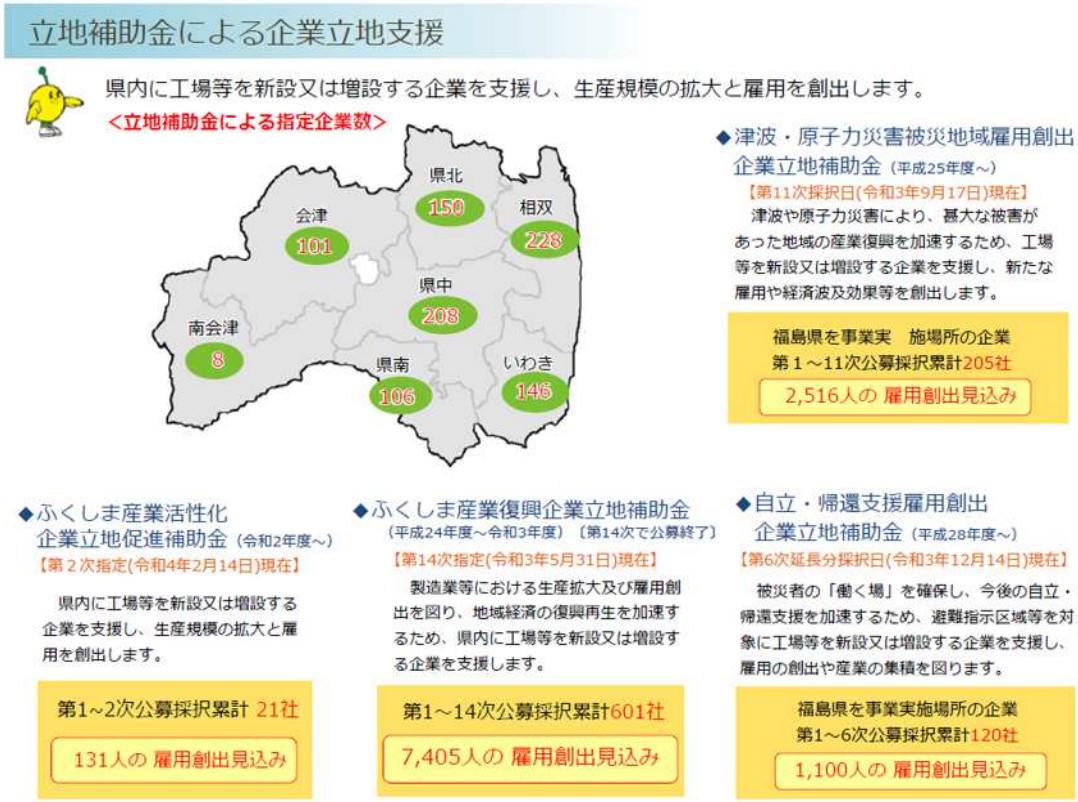
派遣先所属　　福島県商工労働部企業立地課
氏　　名　　岸　啓輔（きし　けいすけ）
派 遣 期 間　　令和４年４月１日～令和５年３月 31 日

１　派遣業務の内容、現況

私の派遣先の企業立地課では、主に製造業等の誘致・補助金及び鉱工業に係る業務を行っています。私は立地支援担当の一員として、補助金に係る支払・相談対応等の業務を担当しています。私の担当にはかつては他県からの派遣職員が最大４人いましたが、震災から時間が経過し、補助金の規模が縮小されてきたこともあり、現在は私１人のみとなっています。



▲私が担当する４つの企業立地補助金（ふくしま復興のあゆみ（第 31.１版）から引用）

福島県の製造業は、東日本大震災及び原発事故により大きな打撃を受けました。震災前年の平成 22 年に約 5.１兆円だった製造品出荷額が、震災があった 23 年には約 4.３兆円まで落ち込みました。上記４つの企業立地補助金は、要件や補助率は多少異なりますが、震災により打撃を受けた福島県の製造業等の生産拡大及び雇用創出を図り、地域経済の復興のため創設されました。

補助金や誘致活動の成果もあり、製造品出荷額は、一旦は震災前の水準まで持ち直したもの

の、新型コロナウイルスの影響で近年再び下落しています。

私の業務内容ですが、年度当初は「自立・帰還支援雇用創出企業立地補助金」を活用して避難指示区域等に工場等を新設・増設する意向のある企業からの申請に向けた相談対応を主に行っていました。相談に来る企業の業種が多種多様で（機械製造、化学工業、農業、産業廃棄物処理…等々）、事業内容を理解するのに苦労しました。また、高い補助率目当てで熟度の低い事業計画を提出してくる企業もあり、被災地の復興・再生に寄与し得る事業なのかを慎重に見極める必要があります。

７月以降は、「ふくしま産業活性化企業立地促進補助金」に申請する企業の問合せ対応や相談受付を主に行っていました。記録的な円安による国内回帰、半導体不足などの影響で今年度は問合せ件数が非常に多く、補助金業務の経験が浅い中対応しなければならず、周りの職員や申請する企業に迷惑をかけないか不安な日々でした。

慣れない環境で慣れない業務を行うことは大変なことばかりですが、産業振興に係る業務には以前から携わりたいと希望していたので、やりがいを持って日々の業務に取り組めています。また、補助金の相談や完了検査の際に様々な企業の方とお会いする中で、普段ニュースや新聞記事を通して断片的にしか知り得ない世の中の動きを現場の生の声として聞くことができるのも貴重な経験だと感じています。

２　被災地の復旧･復興の状況

中通り、会津、いわき市などでは、震災の爪痕らしきものはもうほとんど見当たりません。しかし、出張などで避難指示が出されていた市町村を通ると、人気がなく草木が生い茂り、除染土を運ぶトラックが何台も行き交う異様な光景を目にします。

８月に私の所属する商工労働部の研修で双葉町の帰還困難区域を通過した際には、地震で崩れたままの家や長期間風雨にさらされて錆びついた自動車が震災当時から放置されたままになっていました。そのような光景を目にして背筋が凍るような恐怖を感じるとともに、この失われた人々の営みを取り戻すのに一体どれほどの時間がかかるのだろうかと絶望にも似た気持ちになりました。

国家プロジェクトである「福島イノベーションコースト構想」などの成果もあり、被災地の産業復興は少しずつ着実に進んでいるように感じます。しかし、新たな問題として人手不足が発生しています。企業立地補助金では、新規地元雇用が交付要件となっていますが、特に浜通りは生産年齢人口が少なく、企業が人集めにとても苦労しています。中には補助事業として採択されたものの、雇用の確保ができずに補助金が支払えないケースもあります。県外に避難した人々の帰還支援、風評被害の払拭、移住・定住促進などの対策を今まで以上に講じなければ、相当な機会損失が発生するのではないかと危惧しています。

３　被災地へ派遣となって感じたこと

私は生まれてからの約 30 年間をずっと埼玉県で過ごし、埼玉県外に住むのは今回が初めてになります。３月末の夜に新幹線から福島に降り立った瞬間に感じた寒さで、これから１年間やっていけるのか不安に襲われましたが、穏やかで優しい周囲の方々の支えのおかげで充実した日々を過ごしています。

福島に来て感じた埼玉との違いですが、福島は自分たちの郷土に誇りを持っている人が非常に多いように感じます。「ここの桜は綺麗だよ」、「このお祭りには行った方がいいよ」、「桃は絶対食べなきゃだめだよ」といったように様々なものをおすすめしてくれます。一方で、私が逆の立場だったら埼玉の何をおすすめできるか考えてみたもののあまり思い浮かばず、情けない気持ちになり、福島の方々に埼玉のＰＲができるよう埼玉のことをもっと知らなければと猛省しました。

休日の過ごし方ですが、私は福島に来てすぐオートバイを購入し、ほぼ毎週末どこかに出かけています。30 分かけて福島市内の飯坂温泉か土湯温泉に行くもよし、１時間かけて相馬に海鮮丼を食べに行くもよし、１時間半かけて喜多方か白河にラーメンを食べに行くもよしと様々な楽しみ方ができます。福島県は１都３県を合わせた面積よりも大きく、行きたいところが多すぎてまだ全然回り切れていません。

福島県には全国でも屈指の観光資源があります。先に挙げた温泉やラーメンの他にも、美しい山岳や湖沼、歴史を感じられる祭りや建造物、全国新酒鑑評会で金賞受賞数９年連続日本一の日本酒など、枚挙にいとまがありません。埼玉からのアクセスもよく、日帰りも十分可能ですが、是非とも１泊して多様な魅力あふれる福島を味わいにいらしてください。

▲４月・鶴ヶ城（会津若松市）

▲５月・会津駒ヶ岳（檜枝岐村）

▲７月・相馬野馬追（南相馬市）

▲10 月・箕輪山（福島市・猪苗代町）